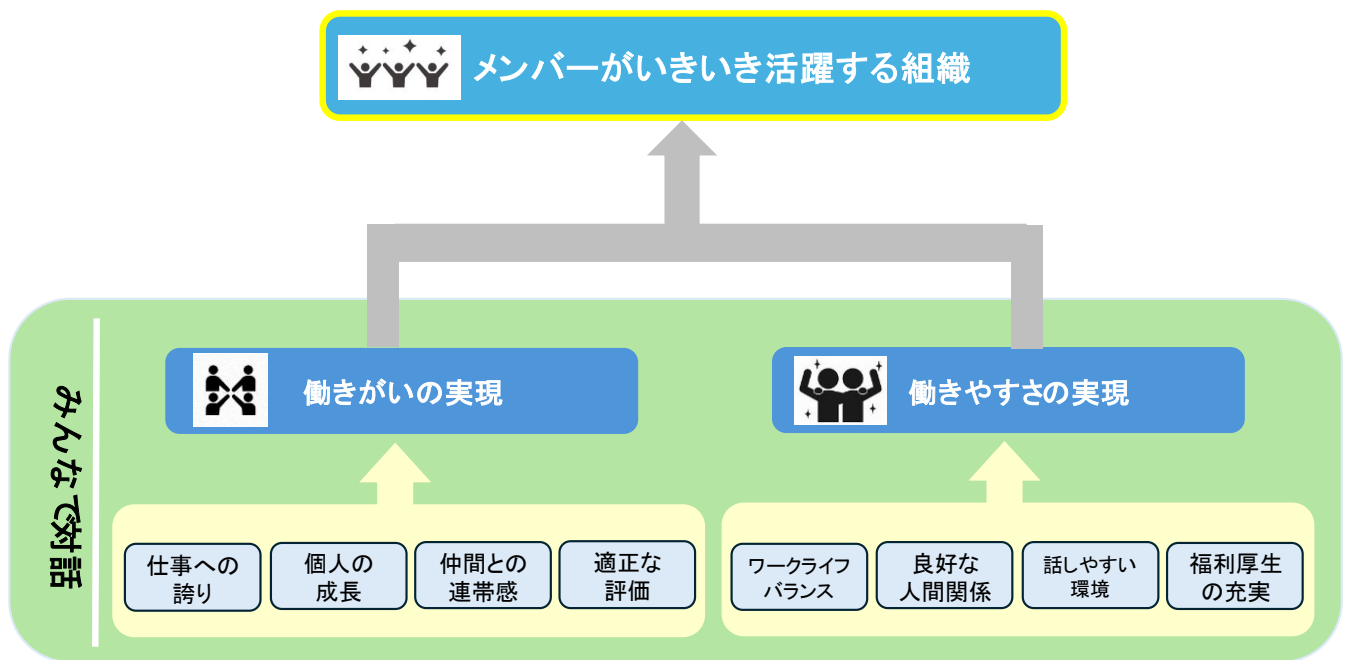


【 第11期 支部運動方針の考え方 】

■ 今期の運動方針

一致団結

<メンバーひとりひとりが「働きがい」「働きやすさ」を一緒に考えていきましょう>



<今期運動方針の進め方>

- ・長時間労働や職場での課題に対して発信できる場を設けていきます。メンバーの働きがい、働きやすさを向上させていくにはメンバーひとりひとりと考えを共有して進めていくことと考えています
- ・労使通年協議項目や労働組合の情報を VOICE の時や L I N E、ホームページ、メールにて発信をし、メンバーとのやり取りの場を設け、議論をしていきます
- ・兼任役員がメンバーとの関係性向上を図るために、今以上に活動に対して主体的な行動をとっていきます
- ・総実労働時間短縮に向けた取り組みは、各所属における働き方の課題点を職場委員会で抽出して対応策や情報の共有をおこない改善に向けて取り組みを進めていきます
- ・活動したことに対する報告、「知らせる」の強化をおこない、そして聴くにつなげていきます

三越伊勢丹プロパティ・デザイン支部 第11期前半年度（2024・2025年度）の振り返り

【 第11期前半年度（2024年度下期～2025年度上期）のトピックス 】

●事業会社の動向

- ・ 長年培った高い技術が評価されたことから、歴史的建造物の「国指定史跡荻外荘（近衛文麿旧宅）復原・整備プロジェクト」にIMPDが携わり、グループの方針であるサステナビリティの取り組みにも貢献した。
- ・ IMPDの科学を設定したことで業務フローの見直しをすすめ、より効率的で、生産性の高い働き方への取り組みをすすめている。
- ・ これまで以上に利益率を追求した働き方を推進したことで、PM事業部を中心に、売上総利益率の向上がすすんでいる。

●支部の動向

- ・ 物価上昇への対応や、採用賃金引き上げへのバランスを図ることを目的に、すべての雇用形態でベースアップをおこなった。（月給制：10,000円、時給制：60円、年俸制：120,000円）
- ・ 三越製作所の技能社員において、高い技術や知識をもとに会社へ貢献していけるよう定年延長の制度改定をした。
- ・ 同業他社の労働組合の集まりとして、「木工連」の意見交換会に定期的に参加し、業界の動向や処遇水準の状況把握に努めたことで、協議など様々な取り組みに活かすことに繋がった。

【 活動の振り返り 】

全体の振り返り

- ・ 職場委員会において、若手の育成をテーマに議論を重ね、労使でも共有した結果、より現場のニーズに即したスポンサー制度の運用に繋がった。
- ・ 2022年度から段階的にすすめてきた所定労働時間の短縮については、2025年度より当初の目標であった7時間25分となった。
- ・ 技能社員の定年延長を検討していく中で、テーマ別VOICEを実施し、確認しながらすすめていった。
- ・ 社員の人事制度として、専門性によりスポットを当てたあらたな制度の検討をおこなってきた。
- ・ レクリエーション企画としてボウリング大会を開催（東京会場・大阪会場）して、メンバー間の一体感の醸成をおこなった。
- ・ 広報活動として、あらたな掲示板の設置（MI西新宿）や、LINE登録のご案内に重点を置くなど、アナログとデジタルの双方において取り組み強化をおこなった。

◎：できたこと

- ・ 兼任主体で運営をおこなう職場委員会の開催
- ・ 兼任役員とVOICEの出席率アップの施策を実施（春交VOICE55.1%⇒6月賞与VOICE74.1%）
- ・ 技能社員の定年年齢の延長の制度改定をおこなった（60歳⇒65歳）
- ・ 時間管理に関するアンケートを実施 意見の抽出
- ・ MI西新宿において、三越伊勢丹支部とIMBS支部と連携をして愛の募金活動を実施

△：やりきれなかったこと

- ・ 経験や専門性を活かしていく人事制度の継続協議
- ・ 働く環境や時間管理をテーマとしたVOICEや現場活動の実施
- ・ 組合機関会議において事前の資料や議題の共有
- ・ 「VOICE報告」のメンバーへ「知らせる」の活動
- ・ 各組合活動への兼任役員の巻き込み

【 支部活動の予算執行とポイント 】

予 算	実 績	執行率
1,110,000円	627,572円	56.54%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 【交通費・旅費】他労組との懇話会（木工連）を大阪府現地で予定をしていたが、予定をリモート参加に変更した ・ 【交通費・旅費】支部機関会議の内、一部を本社でのリアル開催として予定していたが、リモート開催となった ・ 【現場活動費】本社の短時間勤務者対象のVOICEを貸会議室開催から動画やリモートVOICEへ変更をした 		

IMPD支部 第11期後半年度（2025・2026年度）後半年度に向けて

【 取り巻く環境 】

- ・ 建設業界では、今後も需要は拡大していくことが予想され人手不足、資材高騰、長時間労働などの課題が想定される。
- ・ 業界では人材の確保に向けて採用賃金の引き上げがおこなわれており、IMPDにおいても今後の事業拡大を見据え、より魅力のある水準が必要である。
- ・ 三越製作所のブランド力や技術力、既存事業の独自性や物件進捗マネジメント力を向上させていき、収益基盤を強化していく。
- ・ 2025年度は、中長期の大型物件の選定基準をつくり、物件の絞り込みや戦略物件の営業活動をおこなう。
- ・ MI外商やグループ連携を活かし、新規顧客の獲得や既存顧客の深掘りをすすめていく基盤整備の取り組みをおこなっていく。
- ・ 三越伊勢丹グループのまち化戦略に向け、PM事業部などのノウハウ・ネットワークを蓄積して、自社開発物件に取り組んでいく。
- ・ BIMによる実物件での実施検証をおこない、実務での課題を吸い上げ、導入し効果が出やすい物件を検証し今後の導入部署の選定やBIMの拡大計画を検討していく。
- ・ IMPDの科学を更に根付かせ、物件進捗マネジメントの精度を高め利益を出していく業務フローを目指していく。

【 取り巻く環境と前半年度振り返りを踏まえ、後半年度に向けた考え方 】

【働きがい、働きやすさにつながる施策】

- ・ メンバーがより意欲的に業務に取り組めるように、自身の専門性や経験を活かして、それが評価される人事制度を検討していく。
- ・ 生活を守るという視点に立ち、近年の物価高対応をおこなっていき、安心して働ける環境を作っていく。

【時間管理を意識した働き方を目指す】

- ・ ワークライフバランスの取り組みを推進し、メンバーが心身の健康を保ち、いきいき活躍できる組織を目指していく。
- ・ より働きやすい職場環境を目指していくため、当該メンバーの方々と意見交換を目的としたテーマ別VOICEを実施する。

【兼任役員との連携強化】

- ・ 今期の「一致団結」を実現させるため兼任役員と各活動の目的と意義を話し合いに運動方針に向かって協力して推進していく。
- ・ 兼任役員と連携してメンバーへの周知を、目的や目標、共感ポイント等を具体的にまとめ発信をおこなっていく。
- ・ 各所属での課題をタイムリーに共有して解決に向けて取り組む。
- ・ 職場の課題改善に向けた議論している職場委員会での議論の内容をメンバーに「知らせる」取り組みをおこなっていく。
- ・ 各地域拠点の垣根を越え、これまで以上に一体となった活動を、兼任役員を巻き込みながらすすめていく。

【 重点取り組み（具体的な活動） 】

労働福祉活動

- ・ 業務特性を踏まえ、これまで以上に専門性を活かした人事制度の検討をしていく。
- ・ 働く環境の整備として、時間外の削減、総実労働時間の短縮を目指すことを目標に課題を抽出して改善に取り組む。
- ・ ワークライフバランスの推進や採用競争力の拡大を目的に年間休日数拡大（117日⇒120日）を目指す。
- ・ 社宅補助や資格取得の支援などメンバーがモチベーション高く業務に取り組める人事制度の検討をしていく。
- ・ 継続して、同業他社の労組と懇話会を開催し、同業他社の動向や処遇水準の把握をおこない今後の協議に活かしていく。

経営対策活動

- ・ アクションプランや中期経営計画の進捗状況の確認を継続的におこない、組合機関会議で役員と共有や議論をおこない、理解をすすめていく。
- ・ 経営懇話会では経営戦略、業績推移など情報を整理して、具体的で焦点を絞った質問をしていく。
- ・ 経営とのパイプ役として、メンバーの気持ちや意見をタイムリーに伝えていく。

VOICE 活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 兼任役員と連携をして出席率を高める施策をおこなう。（開催告知のタイミングや開催期間、告知方法、リアル・リモート・動画等の参加方法）メンバーがより出席しやすい柔軟な方法を考え VOICE を開催する。 ・ 出席者との意見交換しやすい場の作りやポイントを絞った説明にして、メンバーと多く議論できるような開催をおこなう。 ・ メンバーの声から現場の課題を吸い上げて、解決に向けて適宜労使で共有をして、働きやすい環境づくりに努めていく。
広報活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 組合の情報をタイムリーに共有できるよう、IMPDメンバー全員に労働組合公式LINEアカウントの登録を周知していく。 ・ 定期的に経営懇話会報告や組合活動の発信と報告をホームページにておこない、メンバーに各内容の周知を図る。 ・ 情報発信をデジタル(ホームページ)とアナログ(掲示板)を活用し、組合の情報を受け取れる機会を増やしていく。
組織活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 兼任役員との連携を強化し、組合活動の情報を発信し、メンバーに組合活動の参画をすすめていく。 ・ VOICEなどは兼任役員と共に運営をすることで、メンバーの参加を促し、出席率を上げていく。 ・ 機関会議において、事前に資料を共有して役員と議論をする時間を多く作り、内容の理解を深めることや新しい視点でとらえることによってより良いものを作っていける組織にしていく。 ・ 職場委員会で議論している内容は、意見交換を継続的にメンバーへ情報共有をおこなう。

【 支部活動予算とポイント 】

予 算	前期実績	前期比
1,020,000円	627,572円	162.53%
<ul style="list-style-type: none"> ・ 【現場活動費】地方事業所勤務のメンバーとの遠隔地懇親会を実施予定 ・ 【交通費・旅費】地方勤務の兼任役員の東京までの往復交通費（1月春の交渉合宿・3月支部大会） ・ 【交通費・旅費】春の交渉メンバーズVOICE（2月・3月）は各拠点リアルで実施 ・ 【交通費・旅費】11月と4月に木工連の懇話会を予定しており、出席するため大阪往訪 ・ 【レクリエーション費】各所属の一体感や人材交流の活性化等の高まりを想定した職場親睦会補助 		